

1. 第一種高気圧酸素治療装置における問題点—治療中止，拒否例の検討—

小島小夜子*¹⁾ 中村昭弘*²⁾ 千葉 誠*³⁾
千葉 聡*⁴⁾ 千葉暎子*⁴⁾ 千葉博史*⁴⁾

(^{*1)}関東病院 Ns
(^{*2)} 同 CE
(^{*3)} 同 DD
(^{*4)} 同 MD)

第一種高気圧酸素治療装置は，患者側治療環境の閉塞性，環境湿温度制御の困難さ等，患者にとっては良好な環境とは言い難く，現場において治療拒否をされる事がある。また，治療中に患者側にトラブルが発生した場合も，第二種装置に比べて医療側の対応選択肢が少ないため，早期判断による治療中止を余儀なくされる症例も多い。

当院では過去十年に渡る治療記録が，データベース化されてパソコンに蓄積されているので，今回は治療中止例や治療拒否例を抽出し，年齢，性別，疾患等の幾つかの因子について，一定の傾向が見られるかどうかを統計的手法を用いて検討したので報告する。

2. 第1種高気圧治療装置における上下可動式ストレッチャーの有用性の検討

小林さゆり*¹⁾ 小林 薫*¹⁾ 佐藤俊博*¹⁾
勢納八郎*²⁾ 内藤明広*³⁾ 川原勝彦*³⁾
長嶋末一*⁴⁾

(^{*1)}名古屋共立病院臨床工学課
(^{*2)} 同 内科
(^{*3)} 同 外科
(^{*4)} ㈱アムコ)

【目的】 患者のストレッチャーへの移動時の安全確保と，その介助にあたるスタッフの労力の軽減を目的にストレッチャーの改造を試み，検討した。

【方法】 CLINICA2000 (HYOX 社製) を対象としたストレッチャーを，上下可動できるよう改造をメーカーに依頼した。

①改造前，高さ79cm 固定のため足台2つを用いて使用した。

②改造後，高さ54cm から81cm まで上下可動でき，患者が移動しやすい高さにて使用した。患者・スタッフに①・②での移動を経験してもらい，アンケートを行った。

【結果】 患者からは，移動しやすい高さまで下げた方が良いという解答がほとんどであった。スタッフからは，介助にあたるスタッフを削減すると同時に労力も軽減でき，安全に移動介助を行えるという解答を得た。

【まとめ】 現在販売されている第1種治療装置のストレッチャーのほとんどは，高さ固定のため患者移動において安全性に欠けている。今回改造したストレッチャーは，更なる改良を加える必要はあるが，患者を安全に移動させる点では，有用であると考えられる。